

日野市立教育センター一報

# 教育センターだより

第10号 平成18年11月20日発行



日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分

～午後5時15分



## 小学校の英語教育問題についての一考察

日野市教育委員 渡辺 博

昨年、イランに旅する機会がありました。各地で、中学生とおぼしき人なつこい子どもたちから英語で話しかけられました。周知のように、イランとアメリカは政治的に極めて厳しい関係にあります。にもかかわらず、コミュニケーションのツールとして熱心に英語教育がなされているのは驚きでした。ひるがえってわが国では、国際化の進展の中で、静かにかつ熱く小学校への英語教育導入＝必修化の議論が活発化しているようです。しかし「小学校から英語を教えることは、日本を滅ぼす最も確実な方法」（藤原正彦著『国家の品格』）などの反対意見や異論も出ており、焦らず立ち止まって考えてみたいものです。

- (1) 反対意見の主な理由としては、条件整備の問題を除くと、①小学校では日本語をしっかりと教えるのが先決。欲ばるとどちらも中途半端で身につかない。②「英語教育は早く始めるほどよい」は間違い。③国際理解の問題と英語教育は直結しない。④英語教育全体の理念と目標その中の小学校での英語教育の位置づけがない——などです。

①については、すでに1996年の中教審答申でも、小学校での英語教育見送りの理由の一つとして「小学校段階では国語の能力の育成が必要」と指摘されています。②は早期教育の根拠とされる「臨界期」説(言語は早ければ早いほど獲得しやすく、時期を逸すると困難となるとする説)に対する批判。外国に移住した子どもが、すぐにその国の言葉に慣れるのは、単一の言語環境にあり、生活の必要性の中から自然と獲得されるのである。日本語だけの環境の中で、日本の子どもがバイリンガルに育つというのとは事情が異なる。また、週2、3時間の授業で早期に外国語が身につくというのは幻想である——というもの。③については、国際理解が英語教育に結びつく必然性はないという批判。また、「『国際人』と言うと、すぐに『英語』となるのですが、英語と国際人に直接関係はない」（藤原正彦、前掲書）など。④については、当然、明示されるべきでしょう。

- (2) これら(特に①と②)への反批判の主なものは、次のようなものです。①日本語教育の妨げになるという批判は、周りが圧倒的な日本語環境にあるのであたらぬ。②外国で、親が子どもに比べその地の言語に慣れるのが困難、あるいは遅いというのは無視できない事実である。また、発音に関しては「臨界期」は明らかである。③現実に、多くの私立の小学校で英語教育が行なわれている事実をどう考えるのか——等です。

- (3) オール・オア・ナッシングでない、次のような傾聴すべき見解があります。——導入するならば「教える英語の内容は、児童の負担が少なく、かつ学習の基礎となり、早期学習の効果が期待できる発音、聞き取り、文章のリズムなど、口と耳を用いた訓練に徹するべきである」（中島平三・日本英語学会会長、『朝日新聞』2004・4・20）。

- (4) もちろん、小学校英語教育を必修化するには、次のような問題は避けて通れないでしょう。①英語教育全体の理念と目標、その中における小学校での英語教育の位置づけと内容。②開始学年、中学校教育との関連。③96年中教審答申でも指摘された、児童の学習負担増大の問題、教育内容厳選・授業時間の問題。④だれが教えるのか、私学のように免許をもった教員が当たるとすれば、その確保・養成をどうするのか——等々。

- (5) 小学校での英語教育導入＝必修化については、「グローバルリズムの中のメガコンペティションに立ち向かえる人間の養成」という目的からではなく、あくまでも英語を通しての「コミュニケーション能力の基礎」を養うという観点からのものでなければならぬと思います。

〔附記。賛否の論点の整理には、主として『小学校での英語教育は必要か』（大津由紀雄編著・慶應義塾大学出版会）を参考にしました。〕

# 調査研究部

日野市の教育課題に挑戦する教育センター調査研究部の基礎調査研究係（教育課程の研究）、教育経営係（ICTの活用に関する研究）、教科等教育係（ひのっ子教育21開発委員会研究）、ふるさと教育係（郷土教育推進研究）、生涯学習係（地域教育推進研究）では、中間報告会（10月5日：教育センター）を終え、市内の小中学校・学識経験者・地域の皆様方・関係諸機関等のご協力を得て、研究も佳境に入ってきております。中間報告も含め、現在の調査研究の様子を以下、お知らせ致します。

## I. 教育課程（カリキュラム）の研究

## 基礎調査研究係

Q. どのような調査研究を進めているのですか？

A 幼稚園・小学校・中学校教育の円滑な接続・一貫性のあり方についての研究を進めています。

Q. この課題を取り上げた理由は何ですか？

A 幼稚園と小学校、小学校と中学校の接続期に起きやすいギャップの解消を目指しています。

Q. どのような内容の研究ですか？

A 幼稚園から小学校にかけて、また、小学校から中学校にかけての教育内容や方法をどのように工夫していけば滑らかな接続が図れるかを探っています。本年度は「読解力」、また「読解を支える力としての言葉」に、焦点をあてた接続期の繋がりを探っています。  
さらに、特に小学校から中学校にかけて課題の大きい学習規律のあり方についても検討を進めています。

Q. 幼稚園から小学校にかけて、一貫性をもたせた教育課程はどのように工夫していますか？

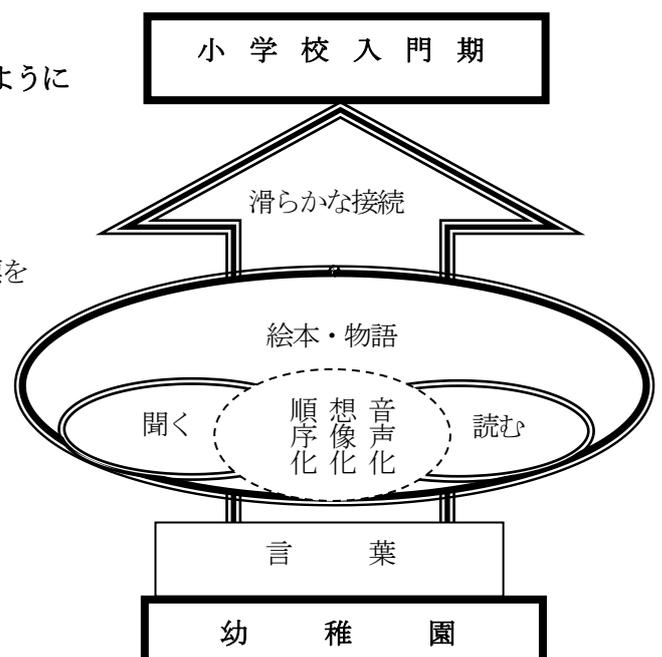
A 幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の範囲内で、「幼・小接続学年の系統性を明確にする」、「『聞く』楽しみや『読む』楽しみの中から幼稚園と小学校を滑らかに接続させ読む力の基礎を育む」ことを基本に考えています。

Q. 小学校と中学校の接続期の教育については、どのように工夫していますか？

A 学習指導要領の範囲内で、「小・中接続学年の系統性を明確にする」ことを基本的な考え方としています。小・中の「読むこと」ことの到達目標を共通化し、また、分類化を進めています。

Q. 学習規律の確立のために、各校種間の繋がりをどのように工夫していますか？

A ポイントを絞った小学校と中学校共通の学習ルールを設定し、一貫性のある指導のあり方について検討を進めています。



## II. ICT 活用に関する研究

教育経営係

### 日野市の“教育の情報化”への対応 「ICT 活用教育の推進」

教育センターは、日野市の教育の重要課題「ICT 活用教育の推進・充実・発展」の要となる ICT 活用研究委員会を設置し、研究を進めています。

ICT 活用研究委員会は、効果的で専門的な立場から運営がなされるように4部会で構成しています。原則として、月1回の定例会や信州大学で開発されたシステムの掲示板で、調整や情報及び意見交換をしています。

以下は、ICT 活用研究委員会の4部会の役割と活動の中間状況です。

ひのっこ教育21  
—基本と先進の教育—

### ICT活用教育の推進・充実・発展



インターネット情報を活用した理科「天気と情報」学習 潤徳小学校

#### ICT 活用実践部会

##### モデル校による研究発表

- 潤徳小学校 平成 18 年 10 月 26 日  
「ICT を活用した授業の工夫・改善」
- 夢が丘小学校 平成 19 年 1 月 26 日  
「ICT を活用した楽しい学習の研究」
- 日野第三中学校 平成 19 年 3 月  
「校務支援システムの活用」

#### モデル校の役割

##### 情報教育に係る学習活動の具体的展開

- 教育の情報化の推進
- 情報モラルの推進
- ICT 授業の実践
- ICT 効果の普及

#### ICT 活用教育推進室

日本一 ICT 活用教育

日野市の教育が変わる

これからの可能性

#### 教員研修部会

##### ICT 活用研修会実施

- ・コンピュータ操作ができる教員 100%
- ・ICT を授業で活用できる教員 100%
- ・全教職員にセキュリティ意識を高める

- 導入前研修 ↓ 導入後研修
- 操作研修会
  - 活用研修 A・B・C
  - プレゼンソフト活用研修
  - コンピュータ授業活用研修
  - ホームページ作成研修
  - ICT 導入研修
  - A 校内研修 (伝達)
  - B 一斉研修 (講義)
  - C 個人研修 (e-Learning)



#### ICT 活用推進部会

- ◇ 日野市情報セキュリティ実施手順 (学校版) 作成
- ◇ セキュリティポリシーの策定

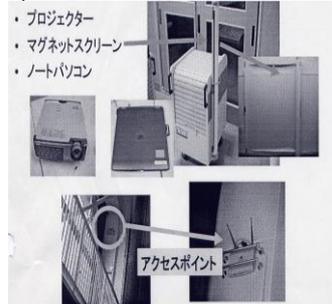


### 小学校・中学校のICT環境整備

#### 環境整備策定部会

- ◇ ICT 環境整備のための企画から敷設に関する事業
- 9 月 校内 LAN 敷設 (小学校: 全校内無線 LAN、中学校: 教職員有線 LAN 全校内 LAN は平成 19 年度)
- 10 月 ★全教職員に一人 1 台のコンピュータが配備
  - ・校務支援システム稼動
  - ・各教室・特別室等にコンピュータ配備 (小学校)
- ★校内どこからでもインターネットが接続可能 (小学校)
- ★ICT 機器 (書画カメラ、e-黒板等) 整備 (小学校)
- 12 月 CMS 導入

#### ICT環境の整備 (教室用ワゴンセット、校内LAN)



ICT活用研究委員会

教育センター調査研究事業中間報告会

教育センター担当所員より報告

日野市としての ICT 戦略

### 「e-japan戦略」から「IT新改革戦略」

### Ⅲ. ひのっ子教育21開発委員会

#### 教科等教育係

ひのっ子教育21開発委員会は、今年度新たに発足しました。この開発委員会は、日野市教育委員会の教育課題の解決のために設けられた組織です。

そこで、今年度から「日本一のICT教育」を目指し、本格的に始まったICTを活用した教育活動の充実を図るために「教育用コンテンツの開発及びインターネット上にある教材研究にもとづく授業実践」のため、信州大学教授東原義訓先生にご指導いただきながら、次の事を目指し研究を進めています。

1. 学力向上のために、ICTを活用した教材を開発し、市内の学校に提供する。
2. 目標の達成状況の把握及び補助教材の作成を通して、個に応じた指導方法の向上を図ります。
3. インターネット上にある教科及び情報モラルについての効果的な教材について吟味し、それを活用した授業実践を行います。

これまでに小学校グループは教材開発ソフト「スタディーライター」を用いて、算数科の各学年の教材の作成をや授業研究を進めることになっています。

中学校グループは、インターネット上のコンテンツの収集と、書籍等に収録された資料の把握と活用化に向けて、収集・整理を行っています。

12月7日には、小学校の授業研究による検証を行い、平成19年2月には市内の各小・中学校に向けて、報告会を行う予定です。



#### 平成17年度

#### ひのっ子教育21研究員会研究成果を発表

発表：教育セミナー関東2006

会場：早稲田大学国際会議場

期日：平成18年8月20日

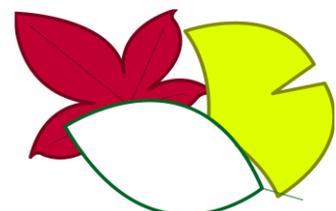
質問に答える大門康雄校長（前ひのっ子教育21研究委員会委員長 日野市立日野第八小学校長）

- \* 幼・小・中の連携を深めながら取り組んだ日野市の教育
- \* 課題「評価を生かした授業・保育改善」研究成果に多くの参加者から関心と質問が集まりました。

**教育センター事業：ひのっ子教育21研究委員会より**

#### ひのっ子教育21開発委員会 組織

- 委員長：矢野 優（百草台小学校長）  
副委員長：尾形 斉（三沢中学校長）  
委員：橋本忠明（日野第四小学校副校長）、  
青木裕子（日野第二小学校教諭）  
土産田千寿子（日野第四小学校主幹）  
菊川民雄（日野第四小学校教諭）  
立川琴子（潤徳小学校教諭）  
有水洋一（滝合小学校教諭）  
木部美行（南平小学校教諭）  
高野淳美（三沢台小学校教諭）  
木村竜太郎（仲田小学校主幹）、  
金藤正湖（夢が丘小学校教諭）  
萩野正隆（日野第一中学校主幹）  
有水理顕（三沢中学校教諭）  
直江哲也（三沢中学校教諭）



## IV. 郷土教育を根づかせる

### — 97、4%—郷土教材の活用は必要

郷土日野指導事例集第1集並びに郷土教材の活用状況について、調査対象者の小学校71/72、中学21/24名の先生から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。集計の詳細は『郷土日野』指導事例 第2集」で報告します。

さて、97、4%という数字は、郷土教材（地域素材の教材化）を授業に活用することは、児童生徒を育成する上で必要な教材と考えている先生のしめる割合です。大変関心の高いことがわかります。しかし、“まず自らが地域を知ること”を必要としながらも、収集が大変、時間的ゆとりがない、教材化が難しい、教科の配当時数の範囲ではできないといった理由から、郷土教材を活用しているのが一部の先生に限られているのはそのためです。この調査をとおして、あらためて郷土教材を再編することの意義が明らかになった次第です。

昨年の第1集に引き続いて第2集の作成を進めています。第2集には、各委員が夏季休業中に東西奔走して収集した多数の教材化可能な資料や、授業実践に基づいた指導事例を掲載し、学校現場の郷土教育推進に一層寄与できることを願っています。

教育センターを窓口にして、郷土資料館や、新選組のふるさと歴史館、図書館との協働研究は、資料の収集、教材化、授業実践に大きな力を発揮し、郷土教育に新たな可能性を切り開くとともに、これからの教育のあり方を考える上で大事な学習環境づくりの構築です。

10月12日、郷土資料館を訪ねた百草台小学校の六年生の、テーマ「これがわが町！百草の歴史！」の授業展開には、郷土資料館学芸員が準備した数多くの資料から、根気よく課題にあった資料を選択していく、難解な文書にも積極的に挑戦し解読していく、昔の絵図を読図する、学芸員の説明に耳を傾ける等、やる気に満ちた子どもたちの姿がありました。“百草の歴史を、地域で暮してきた人々の努力や思いと関連させる”こうした学習を重ねることで、研究主題「郷土意識を育む指導のあり方—郷土と人々のとの関わりの理解をとおして—」は具現化され、着実に子どもたちの身につについていくものと期待しています。

郷土教育を学校教育に根づかせ、郷土日野に対する誇りと自信と愛着をもった「ひのっ子」を育成するために日々努める郷土教育推進研究委員は次のメンバーです。

- |       |  |
|-------|--|
| 委員 長  | 小杉博司（一小校長）   |
| 副委員 長 | 秋山譲児（四中校長）   |
| 委 員   | 近藤晴子（潤徳小） 小坂克信（四小）<br>鎌田博志（平山小） 横田富信（百草台小）<br>山形慎一（七小） 高橋清吾（二中）<br>清水敬造（四中） 益田俊隆（大坂上中）<br>金野啓史（文化スポーツ課学芸員） 峰岸未来（郷土資料館学芸員） 猪俣恵子（図書館職員）<br>会田満（学識経験） 古家新一（指導主事） 鈴木基（指導主事）<br>吉野美智子（教育センター） |

大正五年日野の用水と日野駅の様子  
大町桂月 《多摩の山と水》より抜粋

日野には、路の両側に人家並び、飲用に供する水流る。その溝を見るに、水は清けれど、芥たまり、塵たまり、草鞋までたまる。家々おのれの前だけを浄めて、穢物を下の方に押しやる。—略—気の毒に思い、歩きながら一々穢物をしゃくひ上げて、路に投げ出す。・略・余計なる世話かも知らねど、日野の用水為に清くなりき。

日野駅に至り、プラットホームにて、上り汽車を待つ間、さらでたに蒸暑きに、酔覚の水ほしくて堪えられざりしが、嬉しや、手桶に清水を湛え、柄杓を備えて、乗客の飲用に供す。蘇生の思ひをん為す。これ他の駅には類の無き事也。気の利きたる駅長也。

資料 図書館提供

## V. 地域教育推進研究

## 地域教育推進研究委員会

「未来の大人たちのために今、できること」は何かを研究しています。

学校五日制になって、子どもたちは地域で過ごす時間が多くなりました。地域の中で、スポーツ・文化活動・体験活動を通しての学習活動等を地域の人たちと交流しながら、継続的にやる必要があると考えました。そこで、地域で、子どもといっしょに活躍する教育リーダーや学校との連携や調整をするコーディネーターを育てるための養成講座を開いています。

平成18年度

### 地域教育リーダー養成講座計画

	日 時	講座のテーマ	講 師	会 場
1	10月18日(水) 19時～21時	今、なぜ地域教育が必要か。	西村美東士 聖徳大学教授	502
2	10月25日(水) 19時～21時	地域の教育力をいかに活性化するか	木下 正次 市政策懇談会長	502
3	11月 8日(水) 19時～21時	地域リーダーにとって何が重要か。 —情報発信・収集の方法や技術—	西村美東士 聖徳大学教授	505
4	11月18日(土) 14時～16時	現代の青少年の理解とそれを生かした地域教育の推進	和田由里子 心理カウンセラー	505
5	12月 2日(土) 14時～16時	地域教育力を生かすプランニング	笹木 延吉 元市環境共生部長	505



第1回地域教育リーダー養成講座



第2回地域教育リーダー養成講座

子どもにとっての地域、居場所の意義は「癒しから社会化へ」地域活動で明確にすることは『獲得する能力』を受け手に提示することが大切なのです。そして、子どもたちが達成感を味わうことが大切なのです。クドバス法で具体的行動目標を見つけ教育計画をたてるワークショップを行いました。

ご自分の地域での実践を熱くお話ししていただきました。老人クラブや自治会の活動を活発にすることが豊かな地域づくりになり、子どもたちの暖かい人間関係をつくるのに役立ちます。老人会や自治会の会員を増やし活動を活発にするには、どうしたらよいかを講演していただきました。

# 研修部

## 日野市教育委員会主催研修会から (研修部)

本年度4月からスタートした市教委主催教員研修の10月までにおける研修会参加状況の一部を紹介します。

### 研修会参加状況

#### 研修Ⅰ 職層に応じた研修

##### 1、学校組織マネジメント研修Ⅰ

参加予定者	参加者	参加率
52名	46名	88.4%

##### 2、学校組織マネジメント研修Ⅱ

参加予定者	参加者	参加率
52名	50名	96.1%

#### 研修Ⅲ 教育課題研修

##### 1、全体講演会

参加予定者	参加者	参加率
651名	536名	82.3%

(午前)

参加予定者	参加者	参加率
651名	531名	81.5%

(午後)

##### 3、心の教育研修

参加予定者	参加者	参加率
23名	21名	91.3%

##### 4、国際理解教育研修(小学校英語活動)

参加予定者	参加者	参加率
60名	44名	73.3%

(10月20日現在)

##### 5、環境教育研修

参加予定者	参加者	参加率
32名	24名	75%

##### 6、教育相談研修

参加予定者	参加者	参加率
延57名	延45名	78.9%

##### 7、郷土教育研修

参加予定者	参加者	参加率
35名	27名	77.1%

##### 8、生命尊重教育研修(学校飼育動物)

参加予定者	参加者	参加率
30名	30名	100%

#### 研修Ⅳ 特別課題研修

##### 2、特別支援教育研修

参加予定者	参加者	参加率
129名	118名	91.4%

##### 3、幼児教育研修

参加予定者	参加者	参加率
96名	87名	90.6%

## 相談部

### I. 「子どもこころの電話相談」について 一般教育相談係

教育相談室の相談には、「来所相談」、「電話相談」と「子どもこころの電話相談」などがあります。今回はこの「子どもこころの電話相談」について紹介をします。

子ども電話相談は、以前は「いじめ電話相談」として開設されていきました。その頃は、全国的にも相談をするところが少なかったためか、遠く長野県とか横浜市等から電話がかかってきたことがありました。このようなことは、今でも時々ありますが、相談所連盟等に登録されている電話相談リストやパソコンの掲示板などに、掲載されていることによるものと考えられます。当時、徐々にいじめ相談も減少傾向になり、いじめだけでなく子どもの様々な心の悩みや学校等で困っていることなど広範囲の相談を受けるために、また、日野市立教育センター設立に伴い、新たな方向性として「子どもこころの電話相談」と名称を変更しました。

相談件数は、平成16年度は60件、平成17年度は53件と、今年度は9月末現在22件と減少傾向にあります。本人からの相談も多いけれど、保護者や祖父母や伯父叔母と言った近親者からの相談もありました。相談内容は「いじめ」に関するものが多く、次いで、交友関係や学校や担任に関する不満などです。特殊な相談として性的な問題、家庭内の不満などもありました。

相談内容を見ると、学校生活では友達との関係がうまくいかない、担任との関係や学校の制度に関する不満などがあり気分的に暗くなったり、落ち込んだり、学習や生活上に大きな影響が出てくる事柄です。その解決には、静かに秘密裏に、そして自分を知らない人や関わりが無いところで、相談したいと考えていると思われます。相談室では、その点にも配慮していきます。

電話相談も同様ですが、特に「子どもこころの電話相談」では、プライベートな分野での相談がしやすいように、原則として匿名でも受け付けています。相談が、深刻でありこのまま放置しておくとも重大な事へ発展する可能性があり、一人で解決するには重すぎると考えられる相談に対しては、特に慎重に対応するとともに、課題解決のために面接相談に移行する場合があります。また、電話に出ても話し始められず、そのまま電話が切れるケースや電話のそばに何人かがいて、役割分担をしてかけてくるような電話もあります。相談員が常に心がけていることは、相手の態度や内容にかかわらず相談をするには、相当の勇気や決意が必要であり、苦しんだ結果、相談をしてきてくれたという姿勢で電話を受けています。また、相談室にかかってくる電話には、プライバシー保護の観点とあらゆる電話に真摯な態度で対応する姿勢で、相談にあたっていききたいと考えています。小さな心が打ちひしがれ、毎日毎日を苦しみながら、生活を余儀なくされている子どもからの拠り所のために、用意されている電話相談であることをご理解いただきたいと考えています。

「子どもこころの電話相談」は、直通になっています。また、相談室の開設時間だけでなく、留守番電話でも受け付けています。返事をお求めの場合は、お名前と自宅の電話番号（連絡の取れる電話や携帯電話でも結構です）を入れてくだされば、後日、連絡をします。

子どもたちの悩み相談として「子どもこころの電話相談」を大いに利用してください。

直通電話は 042-592-2782 です。

## II. 学校生活相談係「健全育成担当」の活動

### 学校教育相談係

#### 児童・生徒の健全育成を目指して

「健全育成」は、市内小・中学校の児童、生徒の健全育成を推進するため、各学校の生活指導・進路指導及び学校不適応児童・生徒等についての情報を収集し、指導上の参考資料を提供し、学校への支援に努めています。また、教職員や保護者との相談にのり、適正な生活指導・就学相談の援助にあたっています。また、適応指導教室「わかば教室」の指導とも深く関わり、活動の支援に努めています。

##### 1、健全育成推進に関わること

###### (ア) 生活指導上の実態把握と助言

- ・ 定例小・中学校生活指導主任研修会（年 9 回）に出席し、生活指導に関する各校の実態を知り、指導方針や課題等を把握し、可能な限りの助言・援助に努めています。

###### (イ) 学校不適応児童・生徒（長期欠席）の状況把握

- ・ 市内小・中学校の毎月 5 日以上欠席した児童・生徒の欠席調査を行い、欠席状況を把握し、一人ひとりの欠席原因を考察するとともに、今後の対応を考え、各校との連携を図っています。
- ・ 児童・生徒の実態と学校での様子や取り組みをより深く把握・理解するため、小・中学校全校（26校）の学校訪問を年 1 回実施しています。
- ・ 教育委員会（学校課）、教育相談、適応指導教室との連携を図り、児童・生徒の健全な学校生活への適応に努めています。

##### 2、平成 17 年度長期欠席調査の概要（女子）

###### (ア) 長期欠席者＜年間 30 日以上＞の欠席数＞

小学校 74 名（32）                      中学校 120 名（64）                      計 194 名（96）

###### (イ) 長期欠席者の中の、不登校児童・生徒数                      計 172 名（82）

###### ① 完全不登校                      ほとんど年間を通して登校していない児童・生徒

小学校 21 名（9）                      中学校 20 名（9）                      計 41 名（18）

###### ② 不登校                      年間欠席数 100 日以上＞の児童・生徒数＜わかば教室通室者を含む＞

小学校 16 名（8）                      中学校 57 名（30）                      計 73 名（38）

###### ③ 登校しづり                      年間欠席数 30 日以上 100 日未満の児童・生徒数

小学校 34 名（13）                      中学校 24 名（13）                      計 58 名（26）

日野市における不登校児童・生徒数は、平成 15 年度 151 名、平成 16 年度 164 名、平成 17 年度 172 名と増加しています。今年度（18 年度）は、減少に転じるよう市内各学校との連携を一層強めていきます。

##### 3、不登校の改善を図る・新たな不登校の発生を防ぐ

「わかば教室」から学校に復帰し、元気に通学している児童・生徒がいます。また、登校しづりだった児童・生徒が、見違えるように楽しく学校生活を送っています。学期・学年の変わり目が大きな契機です。不登校改善に向けた取り組み強化が不可欠です。夏休みあけの 9 月は、新たな不登校児童・生徒の多い時期でもあります。夏休み中の子どもへの働きかけを工夫・強化するなど、新たな不登校の発生を防ぐ努力が必要です。

## 平成19年度 購入図書案内

## —教育資料・広報係—

本年度、以下のような書籍を購入しました。教職員並びに市民の皆様方、どうぞ、ご活用ください。  
詳細は、事務室に電話で（[TEL 042-592-0505](tel:042-592-0505)）お聞きください。

NO	図 書 名	編・著者名	出版社
1	日本の産業と地域再発見（上） —工業と環境はどう変わったか—		地歴社
2	日本の産業と地域再発見（中） —第三次産業と暮らしはどう変わったか—		地歴社
3	日本の産業と地域再発見（下） —農林水産業と食生活はどう変わったか—		地歴社
4	ワクワク理科タイム	日本化学会監修	東洋館出版社
5	未来を展望する理科教育	理科教育研究会	東洋館出版社
6	21世紀の小学校理科カリキュラム	都小学校理科研究会	東洋館出版社
7	展望日本型理科教育	日置光久	東洋館出版社
8	小学校理科学力向上大作戦	日置光久	東洋館出版社
9	峯 陽作品集 ①ライオンの歌	峯 陽	音楽センター
10	峯 陽作品集 ②オバケなんてないさ	峯 陽	音楽センター
11	小学校体育 見通しがもてる全単元・全時間のすべて（2年）	藤咲 敬	東洋館出版社
12	小学校体育 見通しがもてる全単元・全時間のすべて（3年）	藤咲 敬	東洋館出版社
13	小学校体育 見通しがもてる全単元・全時間のすべて（4年）	藤咲 敬	東洋館出版社
14	ふしぎだね？ アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち	安倍陽子 諏訪利明	ミネルブア書房
15	軽度発達障害の心理 アセスメント WISCⅢの上手な利用と事例	上野一彦他	日本文化科学社
16	教室でできる特別支援教育のアイデア172 （小学校編）	月森久江（編）	図書文化社
17	心の臨床家のための精神医学ハンドブック	小比木啓吾 他	創元社
18	心理療法の基本	村瀬嘉代子 青木省三	金剛出版
19	エンカウンターで学級が変わる（小学校）	國分康孝 他	図書文化
20	LD・ADHD へのソーシャルスキルトレーニング	小貫 悟 他	日本文化科学社
21	ニッポンの算数		東洋館出版社
22	教育ルネッサンス 教師力	よみうりプロジェクト	中央公論社

# 研究発表・報告会のお知らせ

**日野市教育センター**

## 調査研究事業発表会

日野市の教育課題に対応するシンクタンクとしての役割をめざす四つの調査研究の成果の発表を行います。

\* 日 時 平成19年2月27日(火)  
14:00~16:00

\* 場 所 日野市教育センター 3階講堂

## ひのっ子教育21 開発委員会 研究報告会

日野市の学校でのICTを活用した教育の充実を図るため、教育用コンテンツの開発とそれを用いた授業開発を研究しています。

\* 日 時 平成19年2月(後日、お知らせします。)

\* 場 所 ・ 日野第四小学校

\* 講師 ・ 東原 義訓先生(信州大学教育学部教授)

